



# ～生活支援コーディネーター通信～ 第5号

回覧

「顔を合わせなくても、気にかけているよ」喜多方の町には、そんな静かな思いやりが、日々の暮らしのなかに息づいています。コーディネーターとして、私たちは今日も小さな声に耳を傾けながら、見えにくい支え合いの糸をそっと結び直しています。この通信では、地域の温もりや新しいつながり、そして支え合う喜多方の姿をお届けします。

令和7年7月8日、喜多方市生活支援支え合い連携会議(1層)を開催し、委員の委嘱を行いました。現在委員28名+関係者15名で話し合いを続けています。



研修会は昨年と同じ市民向けにする？  
興味のある人みんなで聞いた方がいいかな…。

今年から任期3年、よろしくお願いします。



## 通いの場紹介 ～小春日和班・わかばモノづくり(会津医療生協)～

### 【小春日和班(わかば体操)】

令和3年9月、小春日和班を結成。感染防止対策をとりながら、たくさんの方が集まり、体操を中心に活動を行っています。百歳体操をはじめ、白虎隊体操、熱塩加納元気節体操など様々な体操を取り入れながら月2回の体操を楽しんでいます。



### 【わかばモノづくり】

令和4年6月より、新しい運営委員の指導のもと、様々なモノづくりを楽しんでいます。バッグ、アクセサリ、木彫、純銀粘土のペンダントなどいろいろ楽しむことができ、参加者が作ってみたいものを提案し黙々と作り、休憩は大笑いしてあっという間の3時間です。モノづくりが一段落した後はカフェタイムを設け、手作りのケーキやお菓子でほっこりしています。



時には外で染物も!普段できない作業にドキドキが止まりません!



～質問してみました～

Q:通いの場を作ったきっかけを教えてください

A:多くの高齢者が外出を控え、自宅で長い時間を過ごすようになり、外出自粛に伴うフレイル(虚弱)の進行が顕著でした。コロナ禍でも何かできる活動はないか…と考えて、まず体操をはじめました。

Q:「体操やものづくり」を始めて変わったことはありますか?

A:皆さんの笑顔を見る事ももちろんですが、何よりもみんなとの活動は、自分が一番楽しい!仲間との活動は、自分の活力となっています。

Q:つどいの場を作りたいなと思っている方に一言

A:気軽に何人かで集まって、みんなで楽しいひとときを過ごすことは、何よりも嬉しい時間です。ぜひ一歩踏み出してみてください!

地域に集まる場所があることは、つながりづくりにとても重要です。どなたでも参加できますので、気になる方はぜひご参加ください。

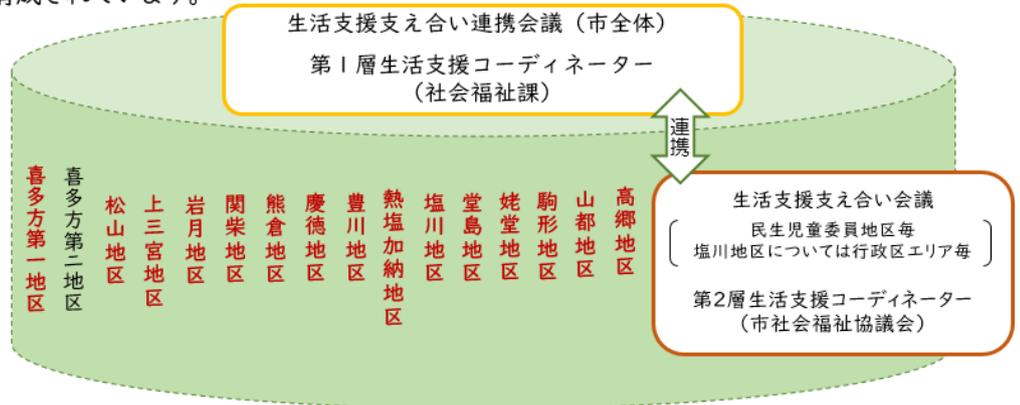
## ～生活支援支え合い会議～

地域住民と関係者が取り組んでいることや、無理なくできることについて話し合う場です。既にある支え合い活動など地域の情報を共有し、将来に向けて「自分たちのまちをどのような地域にしたいか」などを話し合う中で、それぞれがつながり、見守り活動、趣味や体操等による居場所づくりなど、**その地域ならではの支え合いの仕組みづくりをできる範囲で考えていきます。**

生活支援支え合い会議では、仲間を見つけ一緒に活動することや、地域で活動している団体へつなぐなど、できることを見つけながら新たな活動へと広がりを見せています。

市全体のことを話し合う「生活支援支え合い連携会議(第1層)」と各地区毎の話し合いを行う「生活支援支え合い会議(第2層)」で構成されています。

赤色の地区は設立した地区です(R7.7月現在)。R7.2月に喜多方第一地区が設立。詳しい活動についてはQRコードよりご確認ください。



## ～生活支援支え合い会議(2層)の活動報告～



<高郷地区生活支援支え合い会議(さすけねえ高郷)>

認知症になっても安心して生活を続けるためには、地域で見守り合い、支え合いが必要! 地域住民と一緒に認知症サポーター養成講座を受講し、その後オレンジガーデニングプロジェクトに取り組みました。プランターを施設や小中学校に寄贈しながら、さすけねえ高郷の活動を地域に広めています。(R7.6.17 実施)

<関柴地区生活支援支え合い会議(福わけ関柴)>

関柴小学校で行っている、関柴クリーン作戦(地域の清掃活動)に協力し、児童を見守りながら交流を行いました。また、地域住民と一緒に消費生活センターから寸劇を交え、身近なトラブルについて学びました。不安を煽るような話はすぐに信じず、身近な人に早く相談することが大切。住民と一緒に学ぶことで福わけ関柴を知っていただくきっかけにもなりました。(R7.6.19 実施)



## ～生活支援コーディネーター(SC)の紹介～

喜多方市には、6名の生活支援コーディネーターが活動しています。

ご近所の助け合いは、実はちょっとした声かけや気づきから始まります。「誰かとつながっているって、ちょっと安心」そんな気持ちを大切にしながら、私たちはその『声』や『気づき』を形にする橋渡し役として活動しています。これからも一緒に、あたたかい地域をつくっていきましょう。

<第1層(市全体):市社会福祉課 笹川真紀>

市全体のつながりを大切にしながら、地域のさまざまな団体や関係機関と協力して、支え合いの輪を広げる役割を担っています。

<第2層(16地区):市社会福祉協議会 小椋和洋・真部厚志・大塚里美・岩原里美・長浜かおり・富山美幸>

高齢者のみなさんが、地域で自分らしく暮らし続けられるよう、地域住民や関係機関と連携して、介護予防や生活支援、居場所づくりなどを推進しています。